

山梨たかひとマニフェスト進捗チェックリスト

内容	現時点までの結	結果説明
1.暮らしを守るための行政改革 財政の健全化		
総額1億8500万円のコストを削減します 借金残高を確実に減らします		
1 職員給与の見直しで年間5000万円の人件費削減	完了	人件費削減の取り組みによる総額は4年で2億4600万円 その他退職不補充などで平成23年度比5億2755万円の削減
2 し尿処理方法の変更で年間1億2000万円を削減	完了	し尿処理費の経費削減 1年間で1億9331万円の減
3 下水道管敷設整備事業のスピードダウンで年間1500万円を削減	完了	1500万円達成ののち、敷設の30%減 今後は、市街化区域の下水道敷設10年概成と合併処理浄化槽の導入で、河川水の浄化を徹底する
4 年間目標 300万円 600万円稼ぐ行政、財政収入 倍増へ	倍増ならず むしろ減	企業広告の活用で、子育てガイドブックはみんなの無料発行や封筒の無料化などを図るが、純益としては広報やごみ収集車広告収入で230万円～270万円代に留まる
5 その他 公共事業のサービス向上へ	取り組み中	接遇(接客)向上委員会によるサービスマニュアルの策定、ご意見箱の設置などで役場へのクレーム減、ホスピタリティ向上を図る
行政改革も断行		
1 人事評価を導入します。	実施中	導入済み 次期課題は処遇反映
2 人件費の総額コントロールを図ります。	完了	非正規職員の活躍と合わせて平成23年度比5億2755万円の削減
3 生涯学習関連事業では、民間開放を検討します。	実現せず	民間団体の協力は多数あったが、事業の開放には至らず 協働の概念のもと、開放ではなく協力強化が大切かと
4 公園、町有地の再編と資産運用で、塩漬け土地の積極活用を図ります	策定作業中	公共施設白書を策定、公共施設総合管理計画を策定中。無駄のない施設と町有地の再配置を徹底検討することが必要
行政改革のその先は		
1 サービスの向上	取り組み中	おほめのご意見が多く届くようになった 職員の研修参加者数は年々増加させることができた 平成26年度716人 25年度は472人 24年度は631人 参考までに23年は238人 22年度は71人 21年度は136人
2 対応が速く、一度の訪問ですむ町役場	実施中	平成27年4月の機構改革のテーマさらにワンストップ化を目指す
3 目指すは土日開庁	実現せず	経費、ニーズ量の兼ね合いから「開庁」は実質不可能。今後は事業ごとの土日サービス拡張を目指す

2.くらしやすい町へ

子どもは未来への希望です

- 1 14回の検診補助額を増額します
- 2 小児医療費助成の拡大 所得制限を撤廃します
- 3 各種ワクチン等の摂取補助は必ず継続します
- 4 待機児童ゼロへ向けて保育ママ制度など、あらゆる手段をつくします
- 5 学童保育の充実
- 6 交通の安全、子供の安全、防犯という安全
- 7 学校施設の備品整備を進めます
- 8 充実した教育プログラム、町費教員制度を継続します
- 9 食育に力を入れます
- 1 (中学校給食の見直し
- 1 課外授業で社会を学び、故郷を学ぶ教育を
- 1 :子どもには居場所が、子供の社会も大切にすべきです

完了
完了
継続中
完了
モデル実施中
取り組み中
完了
継続中
取り組み中
実現せず
実施中
取り組み中

各回500円増額 今後は産後など含め検診
小学校6年生まで、所得制限なしに拡大 今後は未定
6種の予防接種補助を追加(内3種は定期接種化)継続中
あらゆる手段を検討し、認可保育園の2園新設に成功 待機児童は数値上は0となるが、ミスマッチの解消が課題
本年10月より小学校内における学童保育をモデル開設 今後は拡大を目指す
国県への要望および、通学路のグリーンベルト設置 町内会・PTAなどから見守り活動にご協力をいただいている
子供が接する遊具や運動器具等はもちろんのこと、健康、安全のため、小中全6校にエアコンの設置
町費教員を継続するも、今後は更に英語教育に特化して拡充したい
平成24年に食育計画策定済 町内団体の協力で推進中だが、学校給食など、より拡大には取り組めず
デリバリー弁当方式から完全給食方式を目指すも敷地面積、コスト面から小中学校共同化を検討中 実現に至らず
田畑に触れる活動維持の他、海山に親しむ子どもたちイベントを開催 年間500人以上の参加で開催する他、様々なボランティア団体の活動支援を図る
中学生議会を開催し、子供の意見表明権を確保 今後は中高生の居場所なども検討する

福祉・健康を守ります

- 1 元気シニアの健康維持へ、未病対策(予防)に全力で努めます
- 2 検診の補助拡大へ
- 3 医療と介護の連動、在宅介護の支援を充実します
- 4 医療施設、福祉施設に通いやすくするために、福祉バスやコミュニティーバスの実現をめざします
- 5 ご高齢の方が気軽に出かけられるよう、バス停に屋根やベンチ、まちかどにベンチの設置をめざします

取り組み中
実施中
取り組み中
実現せず
ほぼ実現せず

平成27年度の行政テーマは健康 さらなる健康増進策を展開していく
八間ロケット、脳ドック助成、育がらっへん検診、同級生お火場園子供接種の他、無料受診券の送付や検診、年齢の緩和など利用者目線で取り組む 児童においては6種の予防接種補助を追加する(内3種は定期接種)
日本初のショートステイにおける看取り加算を開始 今後、あらゆる在宅のための連携、福祉連携を強化する
南郷地区活性化において商工会と検討中 障がい者施策として、タクシー券交付による利用改善やガソリン券の家族運転を可にするなど、利用者目線にて改善
1ヶ所葉山マリーナ前にて設置完了 横浜駅との直行便を走らせるなど、バスの利便向上が図れたが、今後さらに拡大したい

- | | | |
|------------------------|-----|---|
| 6 国民健康保険料は引き下げの検討を行います | 継続中 | 一般会計からの繰り入れ金を2000万円増額 予算ベースでは平成27年度、逗子市と保険料が逆転し、葉山町のほうが安くなる |
| 7 救急体制の充実へ | 継続中 | 消防の共同通信化で受信処理速度が52%短縮 消防増員計画の策定で救助班を編成し、より強固な消防体制が確率 |

安全・安心な暮らしを守ります

- | | | |
|-------------------------------------|-----------|---|
| 1 災害時の情報力強化
「聞こえない」、「知らなかった」の解消へ | 一部完了、引き続き | 米沿岸警備隊正式採用のL-RADで防災行政無線を導入 ツイッターによる情報配信開始 17時のチャイムは葉山町歌に まだ聞こえないという声にはラジオ配布などを検討中 |
| 2 避難、救助、地域連携の強化 | 取組み済み | 自主防災組織の連携強化に補助金や備品整備費を増額 また研修費としてバス視察に行けるようにするなど、地域のつながり強化へ |
| 3 行政の備蓄、体制の強化 | 取組み済み | 新地域防災計画を定め、備品の増を図る 職員訓練を導入し、備品チェックや非常参集訓練、地域訓練への参加など、職員力の強化へ |

生活環境を向上させます

- | | | |
|---|--------|---|
| 1 まちかどベンチ、バス停に屋根の設置を
バス会社と連携して実現させます | 取り組み中 | 1ヶ所葉山マリーナ前を設置済み 旧役場跡地でも計画中 |
| 2 歩道と自転車が通る安全の確保に取り組みます | 取り組み中 | 国県への要望で国県道整備を要望、グレーチングの交換、警告灯の交換やガードレールの設置など順次改良中 HPには通行案内図を掲載して開発による提供公園を確保するも、遊具の設置やベンチ設置に力を入れる |
| 3 町なかに公園を | ほぼ実現せず | 遊具は3年で20基新設 ベンチは19脚新設 |
| 4 図書館のあり方を再考します。
地域の憩いの場としての図書館は何か | 実現せず | 未着手 雑誌や新聞の購読数を増やしたが、図書館のあり方は教育総合会議検討課題 |

下水道と合併浄化槽

- | | | |
|---------------------------|-------|---|
| 1 合併浄化槽の導入を推進 | 取り組み中 | 補助金の上乗せや認可事業者による導入策を講じるがほぼ成果出ず 次期は国のプランを活用した10年概成アクションプランに併せて、合併処理浄化槽への転換策を強力推進する |
| 2 整備費用を削減 | 完了 | 10ha程度から7ha程度へ3年間削減させたことで、整備経費も7割に削減された |
| 3 きれいな水環境の整備 | 取り組み中 | 都市計画税納税者の市街化区域には下水道の全面導入を国の力を借りて10年概成する。合併浄化槽への転換は強力推進。それ以外、川の清掃活動支援や不法排水の取締を強化 |
| 4 し尿処理方法の変更で年間1億2000万円を削減 | 完了 | 前述のとおり、し尿処理費の経費削減 1年間で1億9331万円の減 |

ごみの資源化・減量化

収集方法の変更と効率化で燃やすごみを削減。

町内スーパー、商店に、トレー、ラップなど容器包装の簡素化を求め、協議の場を設けます。拡大生産者責任として、量り売りなどの販売方法を提言
燃やすごみ・容器包装プラスチックなどの戸別収集を地域ごとに順次実施

資源ごみを高値で引き取ってもらうため、また、効率よく収集するため、資源ステーションを順次設置
資源物の収益は町内会・自治会に還元
生ごみの自家処理を応援するため、各種生ごみ処理容器への補助、困ったときのアフターケアを行います。同時に、住民が住民に説明することのできる「生ごみ自家処理マイスター」の養成をおこないます。
クリーンセンター職員には徹底したプロ意識とサービス向上のために、業務改善と市場化テストの導入を検討します。

実現せず

簡略化を提案するも実施に至らず 今後重要課題

完了

平成25年2月の拡大試行3地区増の5地区を経て、平成26年6月に全町拡大 20%減量は葉山の町民力と職員のガイド、収集作業員が一つになれた成果

完了

戸別収集と同様に導入する 資源物については相場変動があるものの、売却益のあるものもある

完了

当初より町内会自治会へ奨励金としてkgあたり5円を還元

完了

キエーロ普及はシンポジウムを2回開催するなど、取り組みを活性化
現場でも職員によるアフターフォローで、キメ細やかな対応を維持している。 ゴミ減らし隊とクリーンセンター職員の協働により、各戸訪問を計画中だが、彼らが事実上の生ゴミ自家処理マイスターである
クリーンセンター現場職員によるごみ減量推進会議を設定し、意思決定を委ねる 班制度及び統括者を導入し、業務改善やごみ排出者への啓発、分別指導などプロ意識はかなり向上 役場内部として、最もおほめの言葉を多くもらった部署となる 市場化テストは導入せず

業務改善済み
市場化テストせず

ごみ処理

中間処理である焼却炉を含め、近隣自治体とのパートナーシップ、事業連携で安定的なごみ処理体制を再構築

取り組み中

横須賀・三浦との訴訟終結にあたり、連携を依頼するも断れる (H26.7) それを受けて、逗子市とのごみ処理連携に向けた勉強会を開

3.いきいきとしたまちへ

葉山には 里山・里海という自然財産があります

- 1 環境影響評価条例を制定し、開発のさらなる抑制をします
- 2 民間企業のCSR事業を活用し町民が参加する自然保全活動を通じて、自然を守ります。
- 3 漁協、農協をはじめ、自然を愛する一次産業分野のNPO, 各種団体など、積極的に応援します。健全な一次産業は自然の守り手です。

実現せず

条例制定には至らず 小規模環境影響評価として、自治体独自の自然保護条例の制定を目指して研究する

実施中

二子山山系自然保護協議会を立ち上げ、ダイワハウス、西武鉄道などと官民連携を促進 山中案内板の設置では遭難者が激減した また、木古庭・上山口町内会とダイワハウスの絵屏風作成は地域連携、地域資源の人材活用の象徴に

実施中

漁協の朝市、農協の葉山やさいの会、葉山牛肥育組合への支援 また葉山マーケット設立支援は地産地消推進の要として積極的に支援した

地域の活性化をすすめます

- 1 市場の創設を目指します
- 2 葉山人材（財）に活躍してほしい。
その場所と仕組みを作ります

取り組み中
取り組み中

葉山マーケット設立、漁協の真名瀬朝市が始まる
葉山まちづくり協会によるさまざまな活躍はめざましい。郷土史研究会を主体とした90周年町史は葉山町の協働の象徴として100年を目指す

4.生活者のための町へ

行政の情報発信力は 町民とのコミュニケーションです

- 1 情報共有・公開の徹底
- 2 地域への情報配信のスピードアップ
- 3 町役場のホームページを全面的に改善
- 4 不動産情報の連携を図り、町への移住、定住情報をホームページ上で発信します。
また、災害時に町内の情報が把握できるよう、情報支援システムを構築します。例えば、ツイッターやフェイスブックなどのSNSを活用し、即時情報で町内外にいる方々への災害情報の発信を可能にします。

取り組み中

ホームページの改編やツイッターの開始、昨今ではインスタグラムの開始 広報はやまはいまなお改革を続けており、見やすく分かりやすく、意思疎通できる紙面を目指し続ける

取り組み中

防災行政無線やメール配信、ツイッターでの呼びかけ、広報はやまの無駄のない全戸配布切り替えなどに取り組む

取り組み中

平成26年4月全面改訂済み 今後は編集の自由度が高い方式への変更を模索中

取り組み中

SNSの活用を進める。また、日赤など他団体が行う情報収集能力を活用させていただく。定住などの不動産情報については、空き家対策特別措置法の関係で、収集した情報のもと、協議会を立ち上げた上で、HPにて配信する予定

他自治体とのパートナーシップを築きます

近隣とのコミュニケーションをとことん追求

取り組み中

三浦半島サミット、2市1町の生ごみ処理シンポジウムなど、近隣との関係を再構築中 ゴミ処理については逗子市と研究会開催中